

岩津ねぎだより

令和3年9月17日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

8月は長雨・豪雨によって、根傷み等の湿害や葉折れが多く見られるとともに、多湿条件で発生しやすい黒斑病、軟腐病、白絹病、疫病などの病害も確認されました。
また、8月末からは天候が回復し、アザミウマ類などの害虫が増加してきています。
9月に入っても周期的に変わりやすい天候が続いており、今後、台風の発生も懸念されることから、気象情報に注意し、生育状況に応じた適正な管理に努めましょう。

1 排水対策は早期に実施

今後も、局地的な豪雨や台風の発生が懸念されます。降雨後は、ほ場内が飽水状態となり、根傷みが発生します。ほ場を見回り、降雨後、ほ場内の水が一刻も早く排水できるように、必ず排水溝をチェックしましょう。



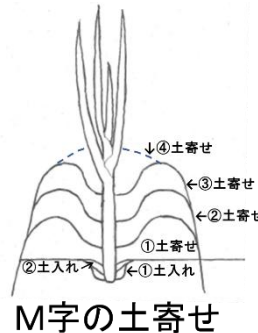
排水不良より、滞水状態が長時間続くと根傷みによる欠株や生育遅延が発生



長時間の滞水による根傷み

2 ねぎの生育に合わせた中耕・培土を実践

写真1のように、生育が良く、襟首より下が伸びているほ場では、株元が埋まらないように注意しながら、襟首の下までM字土寄せを行ってください。11月までに3～4回に分けて実施します。



M字の土寄せ



写真1

3 2回目の土寄せ時から追肥を行いましょ

追肥は生育を見ながら、2回目の土寄せ時から実施しましょう。

<施肥設計>

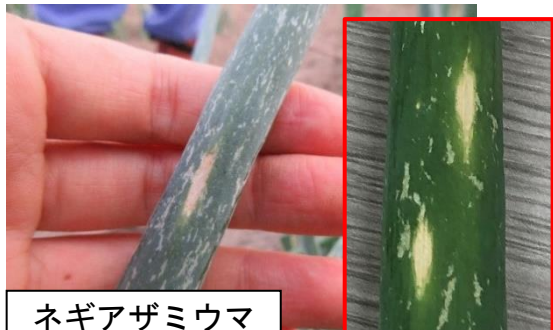
[10aあたり]

	資材名	施用量	時期・施用方法
追肥	やさいめいじん	90kg	2回目土寄せ時
	燐硝安加里 S604 または PKセーブ	30kg	3回目土寄せ時
		30kg	4回目土寄せ時
		30kg	11月下旬～12月上旬（越年収穫）

4 病害虫の防除について

(1) ネギアザミウマが増えてきています

8月の長雨・豪雨が終わり、ネギアザミウマが増えつつあります。今後、秋雨時期が過ぎ、気候が安定すると、さらに増加することが懸念されるので発見次第、早めに防除しましょう。



ネギアザミウマ
による吸汁跡

ねぎえそ条斑病

**ネギアザミウマが媒介する
アイリス黄斑ウイルスによる
ねぎえそ条斑病にも注意しましょう！！**

ネギアザミウマの増加とともに、本種が媒介する「アイリス黄斑ウイルス」による「ねぎえそ条斑病」が疑われる症状が見られるほ場も増えつつあります。

葉身部の商品価値が低下するため、アザミウマ類の防除を徹底しましょう。

(2) 秋雨時期に発生しやすい病害

気温が下がる初秋に、雨が多いと発生しやすい病気に注意しましょう。



黒斑病

**発生条件: 25℃前後、多湿
根傷み、肥料不足や過多が助長**



べと病

**発生条件: 15℃前後、多湿
排水不良のほ場で発生しやすい**



**さび病: 15℃～20℃・多湿
窒素肥料が多いと多発しやすい**

<問合せ先>

・和田山営農生活センター :672-4800 ・朝来営農生活センター :670-4341
・山東営農生活センター :670-7744 ・朝来農業改良普及センター:672-6886